

# 自然がそんなに

# 好きじゃない1

写真・文 山田 真一

2020年の4月に東京から知床に移住してきて1年が経ち気が付いた。「そんなに自然が好きではない」と。しかしこれだけだと誤解を招くので、じっくりと説明させてもらう。

僕はどちらかといえば自然は好きだ。何？情緒不安定？と思われそうだが、どうか落ち着いてほしい。結論から言うと、「自然は好きな方だけど、知床には自然を好き過ぎるぶっ飛んだ人(褒め言葉)が沢山いて、それに比べる」と好きとはいえない」だ。

この1年間、知床に限らず道東に暮らす人と会う機会が沢山あった。皆何かしら目的を持っていた。自然が好き。動物が好き。起業する。農業がしたい。宿泊業を営みたい。アーティスト活動の拠点として等、実に様々な理由がある。

東京ではバンド活動をしたり、パソコンで音楽を作ったり、粘土で置物を作ったり、粘土で置物を作っていたが、アーティストと呼ばれる程洗練されていないし、大きなインスピレーションを北海道に感じて移住するに考えていた。

でも、こちらに来てから他の人と比べると移住に対する動機が弱いんじゃないかと考え始め、そこにコンプレックスにも似た気持ちを抱き、気が付くと黒々としていた髪の毛も薄くなり始め、その隙間をオホーツクの北風が吹き抜けていった。

よく「思い切ったね」と言われるが、帰りたいという妻の願いを「駄目だ」と断るわけもなく、行くという選択肢以外無かった。

東京にいた時から年に2回は妻の帰省に合わせて一緒に帰っていたので、道東の魅力や景観の雄大さは十分に肌で感じていたし、い

ずれ帰りたいと妻も言っていたので住む覚悟はあった。それに僕がこちらに来れば東京の友達が遊びに来てくれるだろうと、割と楽観的

この様にして始まった知床ライフ。一体何を感じたの様な1年間を過ごしたのか。次号からゆっくり振り返りたい。

続く